

いわて生活協同組合
社会活動
環境活動報告書
2017年版

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY REPORT 2017

■ 第1章 復興支援活動

■ 第2章 食の取り組み

■ 第3章 社会貢献活動

■ 第4章 組合員活動

■ 第5章 暮らしを支える事業

■ 第6章 環境活動



CONTENTS — 目次 —

〈 社会活動報告 〉

1 目次 協同組合について 編集方針

2 ごあいさつ

3 いわて生協の成り立ち・事業概要

第1章 復興支援活動

5 「がんばろう!岩手 築こう未来」

第2章 食の取り組み

7 地産地消、食の安全への取り組み

9 顔とくらしのみえる「産直」運動

第3章 社会貢献活動

11 社会貢献活動

第4章 組合員活動

13 組合員の活動

第5章 くらしを支える事業

15 店舗事業、共同購入事業

17 共済、葬祭、介護福祉、住まいと暮らしのサービス

〈 環境活動報告 〉

第6章 環境活動

19 環境理念 環境方針

20 地球温暖化防止の取り組みと結果

21 原子力発電に依存しない事業をめざす取り組み

22 廃棄物の削減・リサイクルの取り組み

23 組合員活動の取り組み

24 環境に配慮した商品普及の取り組み

25 環境負荷とリサイクルフロー

26 環境活動のあゆみ

協同組合について

定義:協同組合とは

協同組合とは、人びとの自治的な協同組織であり、人びとが共通の経済的・社会的・文化的なニーズ（要望）と願いを実現するために自主的に手をつなぎ、事業体を共同で所有し、民主的な管理運営を行うものです。

価値:協同組合にとって大切なものは

協同組合は、自分たちの力と責任で、民主的に、平等で公平に、そして連帯してものごとをすすめていくことを基本理念とします。また先駆者たちの伝統にしたがって、協同組合の組合員は、倫理的な価値観として、誠実でつつみ隠さず、社会的責任と他者への思いやりを持つことを信条とします。

この協同組合の「定義・価値」は、1995年の国際協同組合同盟（ICA）100周年記念大会で、21世紀にむけて、世界の協同組合の指針として採択され、現在もその基礎となっているものです。
※定義と価値は、JC総研発行「新協同組合とは（再訂版）」より引用。

編集方針

いわて生協では、2007年から「社会活動・環境活動報告書」の発行を始めました。報告にあたっては、いわて生協の基本的な考えにそってすすめている事業・活動の内容を、その進捗状況とともに掲載しています。

現在、いわて生協がすすめている「2020年ビジョン」で掲げた「助けあい、支えあい、ともにつくるくらしの安心」の実現に向けて、どんな取り組みを行っているのか、活動の一部ではありますがみなさまにお伝えできれば幸いです。

報告対象期間

特に記載のない限り、2016年度（2016年3月21日～2017年3月20日）の内容です。一部、継続的な活動や将来の目標も報告しています。

発行 2017年6月

Webアドレス

<http://www.iwate.coop/about/csr/>

本報告書のほか過去の報告書もホームページに掲載、ダウンロードできます。

お問い合わせ先

いわて生活協同組合 広報室

〒020-0690 岩手県滝沢市土沢 220 番地3
TEL.019-603-8280 FAX.019-687-1117

「助けあい、支えあい、 ともにつくる暮らしの安心」をめざして

2016年度は、新「2020年ビジョン」と「第8次（2016～2018年度）中期計画」のスタートの年として、夕食宅配サービスの全県での展開、セリオホール岩泉の開設、子育て活動の広がりなど、計画にそって暮らしの願いを着実に実現してまいりました。特に、環境の取り組みでは、コープ東北羽川風力発電「風みらい1号」の稼働などによって、福島原発事故後めざしてきた「原発に頼らない事業」を実現できる目処がたちました。

さて、未曾有の被害をもたらした東日本大震災から早6年が経過しました。被災地の復興はすすんできてはいますが、いまだに1万3千人が不便な仮設住宅などで暮らし、街づくりや生業の復興はまだこれからです。復興が長期化する中で、心身の健康の悪化や孤立化、生活困窮者の増加、人口の流出など、被災者・被災地の問題は複雑・深刻になってきています。また昨年8月の台風10号では、こうした被災地が再び大きな被害を受けました。

こうした中で、いわて生協では、第8次中期計画で掲げた、「買い物支援」「なりわいづくり支援」「笑顔と元気を届ける活動」「震災を風化させない活動」の4つの柱にそって、被災地・被災者に寄り添った支援活動を継続してまいりました。また、台風10号をはじめ熊本地震被害などへの支援にも迅速に取り組んでまいりました。私どもが、こうした支援活動を続けることができたのは、組合員の協力の力と、地域のみなさまや全国の生協のみなさまからのご支援・ご協力があったからこそであり、あらためて感謝と御礼を申し上げます。

今、私たちの暮らしや社会はますます大変な状況になっています。私たちの平和の願いとは裏腹に、強行採決された「安全保障関連法」のもと、この5月には外国軍の武器を守る「武器等防護」の任務が初めて実施されるなど、「戦争をする国づくり」への動きが急速にすすめられています。一方で、貧困と格差はさらに広がり、年金や介護など社会保障の改悪やTPP協定の国会承認、原発の再稼働など、多くの国民の反対の声を無視した政策が数の力で次々とすすめられています。また、地域では高齢化・過疎化により、人口減少と介護人口の増加が加速しています。

昨年11月、「協同組合」がユネスコ無形文化遺産に登録されました。これは、様々な社会的問題に対し、協同組合が組合員の協力の力で創意工夫あふれる解決策を編み出していることが世界的に評価されたものです。岩手にお母さんたちが生協をつくってから47年。いわて生協も組合員が力をあわせて、暮らしの様々な願いをひとつずつ解決し実現してきました。こうした私たちの協力の力と歩みに確信と誇りを持ち、新「2020年ビジョン」で掲げた『助けあい、支えあい、ともにつくる暮らしの安心』をめざし、これからも着実にその歩みをすすめてまいります。

みなさまにはいっそうのご支援、ご協力をお願い申し上げます。



いわて生活協同組合
理事長

飯塚 明彦



1990年4月27日第1回通常総代会を開催。



2017年3月20日、24万人目の組合員が誕生。

いわて生協の成り立ち・事業概要

いわて生協が誕生して26年一。

組合員は24万人を超え県内世帯の46%と、その輪は着実に広がっています。

「盛岡安く牛乳を飲む会」から「生協」へ

1969年一方的な牛乳の値上げに反対し、盛岡市上田地区のお母さんたちが「盛岡安く牛乳を飲む会」を設立し、牛乳の共同購入を始めました。400世帯1千本から始まった牛乳の共同購入は、お母さんたちの仲間づくりにより急速に広がり、卵の共同購入、サリチル酸の入らない清酒を直買する運動にも発展しました。一方でコープ商品や生協運動の学習も積み重ね、同年お母さんたちによる地域生協「盛岡市民生協」が誕生しました。

その後、釜石市や北上市、大船渡市にもお母さんたちによる地域生協がつくられていきました。

1990年3月「いわて生協」が誕生

県内5つの地域生協の合併と、岩手県学校生協宮古地域組合員の合流で、1990年3月21日「いわて生協」が誕生しました。

1. ますますきびしくなる組合員のくらしを守り、より豊かなくらしを実現していく。
 2. そのためにも競争に負けない力強い生協をつくっていく。
 3. 停滞する岩手の経済や、過疎化・高齢化がすすむ地域社会に役立つ生協をつくっていく。
- この3つをめざしてスタートしました。

数字で見るあゆみ

■組合員数

1990年度 (誕生時)	8万8,166人
2000年度	13万7,567人
2005年度	17万9,555人
2010年度	19万9,279人
2015年度	23万3,208人
2016年度	24万91人

■出資金

1990年度 (誕生時)	13.1億円
2000年度	36.4億円
2005年度	56.7億円
2010年度	69.4億円
2015年度	82.5億円
2016年度	85.8億円

■供給高

1990年度 (誕生時)	184.1億円
2000年度	372.9億円
2005年度	363.9億円
2010年度	352.8億円
2015年度	386.2億円
2016年度	399.4億円

2020年ビジョン
~私たちのありたい姿~
「助けあい、支えあい
ともにつくる
くらしの安心」

- 1 私たちは、ふだんのくらしにいつそう役立つ事業を広げ、生涯をととして組合員のくらしに役立つ生協をめざします。
- 2 私たちは、だれもが安心して暮らせる社会と、人と人が支えあいつながる地域づくりをめざし、「明るく!元気に!楽しく!感動する活動」をすすめます。
- 3 私たちは、協同のすばらしさに確信を持つ常勤者をつくり、地域から信頼され、評価される生協をめざします。また、組合員のくらしの願いにこたえるために、健全経営を維持発展させます。

2016年度の事業・決算概要

2016年度は、新「2020年ビジョン」と「第8次中期計画（2016年～2018年度）」のスタートの年として、夕食宅配サービスの全県での展開、セリオホール岩泉の開設、コープ東北羽川風力発電の稼働などを着実にすすめました。供給高は予算にわずかに届きませんでした。最終的な当期剰余金は予算を大幅に上回る3億9千万円を確保し、組合員への出資配当を実現することができました。

事業概要

店舗事業（14店舗）、共同購入事業（9共同購入センター）、共済事業（1共済センター）、葬祭事業（9ホール）、介護・福祉事業（1事業所）、住まいと暮らしのサービス事業

関連会社 / (株) コープトラベルいわて
(株) コープ東北保険センターいわて支店

いわて生協のプロフィール ※すべて2016年度末(2017年3月20日)の数字です。

■組合員数 24万91人	■世帯加入率 46%	■出資金 85億8,098万円	■供給高 399億4,325万円
■共同購入利用人数 7万279人	■常勤者(職員)数 2,115人		

◆店舗



- ・ベルフ八幡平
- ・ベルフ山岸
- ・コープチェリオ(宮古病院内)
- ・ベルフ牧野林
- ・ベルフ仙北
- ・コープアテルイ
- ・コープ高松
- ・マリンコープドラ
- ・コープアールザ
- ・ベルフまつぞの
- ・コープ西ヶ丘
- ・コープ関コルザ
- ・ベルフ青山
- ・ベルフ西町
- ・コープ花巻あうる

■共同購入センター



- ・久慈センター
- ・盛岡南センター
- ・宮古センター
- ・にのへセンター
- ・花北センター
- ・釜石センター
- ・盛岡北センター
- ・県南センター
- ・けせんセンター

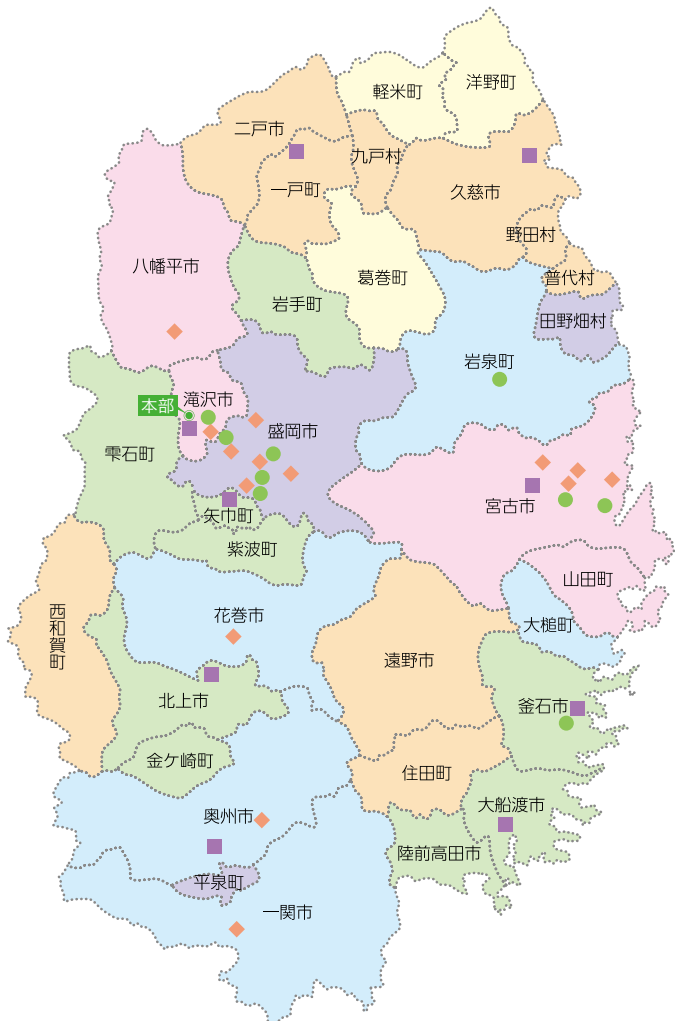
●葬祭会館



- ・セリオホール牧野林
- ・セリオホールみやこ
- ・セリオホールみたけ
- ・セリオホール磯鶏
- ・セリオホール緑が丘
- ・セリオホール釜石
- ・セリオホール中野
- ・セリオホール岩泉
- ・セリオホール仙北

事業所と世帯加入率

事業所	世帯加入率	
◆ 店舗	■ 60%以上	■ 30%以上
■ 共同購入センター	■ 50%以上	■ 20%以上
● 葬祭会館	■ 40%以上	□ 10%以上





「復興応援 地産地消フェスタ」に参加のアイコープ商品メーカー佐勇水産のみなさん。



陸前高田市でのふれあいサロン。

第1章

復興支援活動

「がんばろう！岩手 築こう未来」

6年目となった東日本大震災支援活動は、変化する被災地・被災者の要望に寄りそった取り組みを継続しました。また台風10号や熊本地震などへの支援にも、組合員や全国の生協と協同して取り組みました。

東日本大震災支援活動

「買い物支援」「なりわいづくり支援」「笑顔と元気を届ける活動」「震災を風化させない活動」の4つの柱にそって取り組みました。

毎日のくらしを支える買い物支援 6年間で40万人利用

移動店舗「にこちゃん号」と「無料お買い物バス」7万5千人利用

組合員の募金と全国の生協の支援で実現した、移動店舗「にこちゃん号」。被災地の変化にあわせてコースを見直し、4台が宮古市、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市の仮設団地・災害公営住宅79ヶ所へ運行しています。宮古市田老、山田町から宮古市の店舗へ運行する「無料お買い物バス」と合わせ、2016年度は7万5千人が利用しました。6年間でのべ40万人が利用し、「生協は続けて来てくれるので助かる」との声が寄せられています。



共同購入「復興支援サービス」

共同購入では、被災地（内陸避難の方含む）の個人宅配手数料を優遇する「復興支援サービス」を継続しました。また台風10号被災地の久慈市、宮古市、岩泉町で災証明書をお持ちの方を対象に「新・被災者サポート値引き」（個人宅配手数料優遇）を新設。2つの制度の登録人数は6,762人になりました。

被災地メーカー・生産者を商品利用で応援 6年間で20億円の利用

事業での商品利用おすすめ 4億6千万円

被災メーカーの生業・仕事づくりを応援しようと、被災メーカー・生産者の商品を店舗や共同購入で積極的におすすめしました。2016年度の利用は4億6千万円、この6年間では20億円となりました。被災地のグループや福祉作業所の手づくり品販売も継続し、6年間では4千万円の利用ですが2016年度は439万円と年々減ってきています。

5店舗で復興支援・地産地消フェスタ開催

5店舗で「復興支援・地産地消フェスタ」、マリンコープドラで「復興応援まつり」を開催。沿岸地域を含むのべ278の業者・団体が出店し、沿岸の業者からは「利用してもらうことが励みになる」と喜ばれました。



多くのボランティアで笑顔と元気を届ける活動 6年間で2万8千人参加

「ふれあいサロン」に3,600人参加

仮設住宅集会所などで開催する「ふれあいサロン」は、2016年度は宮古市、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市で62仮設・地域を対象に502回開催し、3,584人が参加しました。この6年間では、3千回開催し、2万5千人が参加しました。仮設住宅の閉鎖などで開催・参加とも減っていますが、「日中は一人なのでサロンが楽しみ」と楽しみにしている方も多く、今後も続きます。

「広がる食の支援」に800人参加

食の支援として、「ふれあいサロン」での昼食会や年末昼食会、味の素「赤いエプロンプロジェクト」共催の「お料理サロン」を開催。804人が参加し、「いつもは一人なのでみんなで食べるとおいしい」と喜ばれています。「3行レシピ集」の発行も継続し、この4年間で12集、4万1千部を配布しました。

「バスボランティア」は宮古市田老、大槌町、陸前高田市での活動を継続し、14回に429人が参加しました。

これからも東日本大震災を忘れない 6年間で2億3千万円の募金

「震災を風化させない」情報発信を強化

被災地の現状を知らせようと、ホームページなどで情報発信を強化しました。組合員の話し合いの場では、災害への備えや「自分にできる支援」について話し合い、「災害への備えを忘れていた」「まだ支援が必要だとわかった」との声が寄せられました。

復興支援募金は1,279万円に

支援活動を支える「復興支援募金」は共同購入利用登録募金参加者が初めて千人を超え、募金も前年より増えました。



2016年度復興支援募金とその活用状況

募金 助成金	組合員支援募金	1,279万4,194円
	全国の生協からの募金	5,077万5,115円
	助成金など	120万2,880円
	計	6,477万2,189円
使途	ふれあいサロン・昼食会	1,029万8,213円
	リフレッシュツアーバス代	217万7,038円
	バスボランティア・年末食事会	191万1,849円
	グループ活動補助	150万4,838円
	文化企画	122万9,768円
	被災地支援活動助成金	190万7,100円
	その他(若いママと子ども支援など)	258万4,809円
	宮古市・山田町買い物バス	1,241万2,489円
	計	3,402万6,104円
残金	復興支援活動基金へ	3,074万6,085円

台風10号支援活動

行政への物資提供支援約10万点

岩手県や宮古市などからの要請に応え、物資提供(10万点、2,600万円)を行いました。

組合員のボランティア、募金活動

清掃ボランティア(9回230人参加)や炊き出し(6回546食提供)、岩泉町への「あったか肌着・衣類」支援(1,100点)に、多くの組合員の協力で行いました。支援募金は600万1,907円が寄せられ、500万円を岩手県に贈呈。残りは支援活動に活用しました。

全国からの支援募金5,420万円に

いわて生協が加盟する岩手県生協連には、県内・全国77の生協・生協連から5,420万7,410円の募金が寄せられ、17年4月までに岩手県に4,610万円と岩泉町へ810万円を贈呈しました。

熊本地震支援活動

組合員に呼びかけて支援募金(809万円、全国の生協で11億5千万円)に取り組んだほか、職員ボランティア15人を熊本に派遣しました。



鳥取県中部地震支援

義援金募金に協力したほか、鳥取県生協にお見舞金を贈呈しました。



「アイコープ岩手県産小麦とお米のパン」改善に参加した、このへコープのみなさん。ごはんを増やしてさらにおいしく改善した「アイコープ岩手県産小麦とお米の食パン」。

第2章

食の取り組み

岩手の豊かな生産物を岩手で消費する「地産地消」を広げようと、県内メーカーや生産者、組合員といっしょに取り組みをすすめています。また、安全な商品をお届けするため、全国・東北の生協と協力して取り組んでいます。

アイコープ商品・アイスタイル商品

地産地消をめざすオリジナルブランド

アイコープ・アイスタイルは、いわて生協が開発・供給しているオリジナルブランドです。できるだけ岩手県産の原料を使用し、岩手県内メーカーとの共同開発で、岩手県内の工場で製造。開発には、組合員も参加しています。

東日本大震災以降は特に、「地場産品の利用を広げることで岩手を元気にしよう」と、利用普及に積極的に取り組んできました。

2016年度「アイコープ商品」「アイスタイル商品」の実績

- 商品数 **141品目**
- 供給高 **14億3,570万円** (前年比 101.4%)
- 製造委託メーカー **55社** (県外メーカー含む)

開発のコンセプト



できるだけ岩手県産の原料を使用し、岩手県内品質の商品です。開発には組合員も参加し、味や使い勝手などを確かめています。



添加物など、いわて生協の品質管理基準を満たしながら、より求めやすい価格を重視した商品です。

府金製粉 県産小麦ホットケーキミックス、すいとん粉

肉のふがね しわ黒豚味付ホルモン鍋用

大塚製麺食品 南部切いた麩

小松製菓 南部せんべい

中野製麺 餃子の皮

平安商店 県産大豆豆腐、県産大豆手揚げ、しらたき、つきこん

吉田銘茶 お茶

風月堂 クリスマスケーキ

大内商店 納豆

白石食品 食パン、スポンジケーキ、クリスマスケーキ

梅園 のし餅

丸美屋 のし餅

戸田久 うどん、生盛岡冷麺、冷やし中華、ゆきちからラーメン、中華そば

あさり菓子店 のし餅

味付ねりごま・ねりくるみ

金門商事 中華風メンマ

太子食品 もやし

浅沼養鶏場 さくら卵の温泉たまご

青三 産直野菜の漬物(期間限定)

岩手畜産流通センター ウィンナー、バラベーコン、焼豚、味付豚ホルモンうめじゃ〜、とんかつ、国産豚ロースみそ漬け、ミニメンチカツ、焼ハンバーグ

岩手チキン工房 チキンナゲット

湯田牛乳公社 牛乳、ヨーグルト、のむヨーグルト、カフェ・オ・レ

山の幸王国 牛ふんたい肥くん

国平 のし餅

一野辺製パン 岩手県産小麦とお米のパン、雁月

昭和食品 串なし焼鳥、産直若鶏肉だんご

樋口せんべい店 岩手県産小麦で作った手造りかりんとう

岩清水食品工業 餃子

アジテック 発芽玄米ひとめぼれ

斎藤食品 角ごんにやく

アジテック ラーメンスープ、冷し中華スープ

小山製麺 県産小麦粉、乾麺

パワー・ブレンド 鮭フレーク

平間製館所 つぶあん、こしあん

八木澤商店 焼肉のたれ

鈴清食品 にがり充填とうふ、油揚げ

オノテラ食品 すんだあん

上山製紙 わたしたちのリサイクルトイレットロール

田老町漁協 だし昆布、根昆布入りとろろ、カットわかめ

吉須賀商店 味付莖わかめ、さんまみりん干し、わかめの佃煮

佐々長醸造 県産みそ、つゆ、超特撰県産大豆醤油、すき焼のたれ、だし入り県産みそ

岩手中央食品 豚バラなんこつ煮込み

JAいわて花巻 岩手県産椎茸どんこ

エーデルワイン Kanau(赤・白)

オリオン カステラ、菓子パン、クリスマスケーキ

アイコープ商品7品目を開発・改善

2016年度はアイコープ商品5品目を開発し、2品目を改善しました。開発・改善には組合員が参加し、よりよい商品にしようと試食や意見を出し合いました。

開発 アイコープ だし入り県産みそ

岩手県産大豆、国産米、国産塩で作った人気の「アイコープ県産みそ」に、かつおと昆布だしをプラス。開発にはけせんコープの組合員が参加しました。製造は佐々長醸造(株) (花巻市)。



開発 アイコープ だし昆布

東日本大震災で大きな被害を受けた、田老町漁協(宮古市)が製造。田老の海で養殖した昆布の利用を広げようと開発しました。



商品のよさと利用を広げる組合員の活動が多彩に

こ〜ぷ委員会で商品のよさを学習、おすすめする「これ、いいね商品」の取り組みがスタートしました。商品比べや工場見学、料理教室、レシピ提案などに工夫して取り組み、「秋のコープのつどい」ではこうした学習をいかした試食などをおとして、商品のよさを伝えました。また、店舗での商品紹介にも取り組みました。



地産地消の取り組み

復興支援・地産地消フェスタ 5会場に8万4千人来場

各広域振興局の協力・参加をいただきベルフ牧野林、ベルフ八幡平、コープアテルイ、コープ関コルザ、コープ花巻あうるの5店舗で開催しました。のべ231の業者・団体が出店し、計8万4千人が来場、地元や沿岸被災地の特産品の利用につながりました。



地域の特産品を 普及する取り組み

行政や生産者団体などの協力をいただき、店舗でイベントを開催しています。「みやこうまいもの市」(年1回)「にしわが山の市場」(2回)を、ベルフ牧野林(滝沢市)で開催。また、県南地方の障がい者施設で構成する「あべじゃネット」による「あべじゃネットフェア」(6回)をコープアテルイで開催しました。



ベルフ牧野林での「にしわが山の市場」。

安全な商品をお届けするための取り組み

工場点検や商品検査の取り組み

食の安全を確保し、食品事故を未然に防止しようと取り組んでいます。2016年度はアイコープ商品製造委託メーカーの工場点検(59工場)、商品検査室での商品微生物検査(3,064件)を行いました。また、コープ東北と連携し、重大商品事故につながるお申し出への監視対応などに取り組みました。

放射性物質自主検査

原発事故後、いわて生協は国や県に放射性物質の検査、対策の強化を求める一方で、行政が検査しない産直品、アイコープ商品、また行政検査の補完とし

て市場流通品の検査に取り組んでいます。

2016年度はアイコープ商品・アイススタイル商品、産直品、市場流通品の計171品目を検査し、いずれも検出限界値(10Bq/kg)未満でした。

日本生協連「食事中的放射性物質 摂取量調査」に参加

日本生活協同組合連合会が行う調査には、全国19都県253世帯(いわて生協から12世帯)が協力し、二日分の食事を調査しました。その結果、すべてのサンプルで放射性セシウムは検出限界値(1Bq/kg)未満でした。



産直米生産者（有）ピース家子さん（奥州市江刺区）。



いわい農産研究会と一関コープ組合員の交流会。

顔とくらしの見える「産直」

組合員と生産者が交流し、日本の農業を守る運動

いわて生協の産直は、安全で新鮮、良質な農畜産物を求める組合員と、農業の発展や健全な生産方法をめざす生産者が交流し、よりよい農畜産物を作りながら、日本の食糧と農業を守っていく運動です。

2016年度「産直」の実績

■供給高

25億1,695万円（前年比 100.6% 供給構成比 13%）

■産直提携産地

30産地

■農産産直コーナー設置店舗

9店舗



産直さくら卵生産者、浅沼養鶏場（紫波町）を岩手郡コープ、金石コープの組合員が見学。

いわて生協の産直三原則

- ①産地と生産者が明確であること
- ②栽培、飼育方法が明確であること
- ③組合員と生産者が交流できること

いわて生協の産直基準

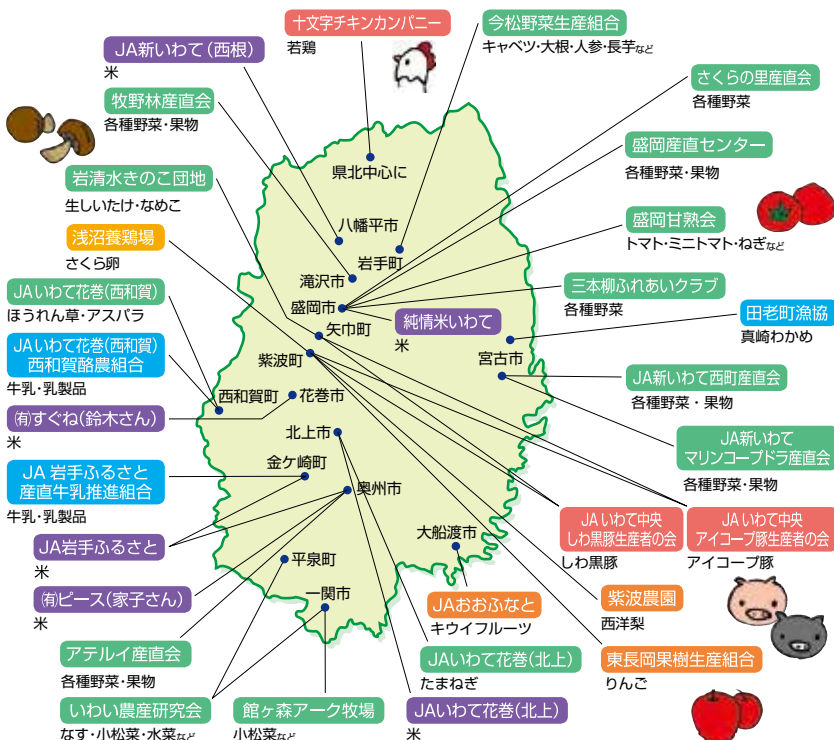
- ①組合員の参加を強め、組合員の願いを商品づくりに反映させます。
- ②「地産地消」の取り組みを強め、岩手の農林水産業を守り発展させることに貢献します。
- ③組合員と生産者が自立・平等の立場で、お互いに発展できることをめざします。
- ④産地、生産者、生産・流通方法を明確にし、情報を公開します。
- ⑤生産方法などを記録し、定期的に点検・検査を行います。
- ⑥後継者育成や、環境負荷低減（農薬の削減など）を支援します。

産直野菜農業基準

- ◆排除農薬／使用禁止する 11 農薬
NAC、ジメトエート、2,4PA、MEP、マンネブ、DEP、EPN、ジラム、チウラム、マラソン、クロルピクリン
- ◆排除目標農薬／
排除に向けて計画的に努力する 6 農薬
キャプタン、ダイアジノン、ベノミル、パラコート、リニユロン、アトラジン

県内30産地と産直提携

2017年4月現在



「産直収穫祭」を店舗・共同購入で開催

産直品のよさと利用を広げる「産直収穫祭」を、店舗・共同購入で毎年開催しています。2016年度は店舗で年4回、共同購入で年3回実施。組合員もいっしょにおすすめ活動に取り組み、店舗での利用は前年比106.3%と伸長しました。



ベルフ西町で宮古コープ組合員が西町産直会の野菜をおすすめ。

組合員と生産者の交流活動を多彩に

産直生協牛乳ふるさと訪問

産直牛乳の産地を組合員家族が訪ねる「産直生協牛乳ふるさと訪問」を西和賀町、金ヶ崎町の2会場で開催し、組合員76人が参加。牛舎で子牛にミルクをあげたり、生産者とお昼をご一緒しながら生産者の努力や思いを知り、交流を深めました。



金ヶ崎町では、子どもたちが搾乳に挑戦。

生産者の思いを知る産直米交流会

花巻市、奥州市（水沢・江刺）の3会場で6回開催。組合員家族のべ109人が、生産者の指導のもと、田植えや田んぼの生き物観察、稲刈りを体験しました。「生産者の大変さがわかった」「お米を大事に食べたい」と好評でした。



鈴木さん（花巻市）の田んぼで盛岡の組合員が田植えを行いました。

組合員の代表が栽培方法などを点検する「公開安全確認会」「業務確認会」

産直品の栽培・飼育方法などの約束事が守られていることを、組合員も参加して確認する「公開安全確認会」。31産地で組合員145人が参加して開催し、生産者の努力への理解が広がりました。

「業務確認会」は、生協が産直品のよさをきちんと伝えて供給しているかを組合員・生産者が確認します。店舗など9事業所を37人が確認しました。



いわい農産研究会（一関市・平泉町）の公開安全確認会には、一関コープの組合員が参加。

生産者・組合員・常勤者が交流し話し合う「産直事業活動交流会」

産直事業のさらなる発展をめざし、生産者・組合員・常勤者が一同に会し、次年度の計画を話し合う「産直事業活動交流会」を毎年開催しています。2016年度は生産者106人、組合員49人、常勤者62人の計217人が参加し、活発な話し合いが行われました。



生産者、組合員、常勤者が産直を盛り上げようと一緒にはかいました。

岩手の食と農、くらしを守る立場からTPPに反対

いわて生協は、岩手の食と農、またくらしに大きな影響を与えるTPPに反対しています。TPPを批准する法案の衆議院強行採決を受けて、抗議する理事会声明をあげました。また、「TPP等と食料・農林水産業・地域経済を考える岩手県民会議」「いわて食・農ネット」といっしょに学習やTPP批准反対の街頭宣伝行動に取り組みました。



陸前高田市長との懇談会。



コープアテルイでのユニセフ募金活動。

第3章

社会貢献活動

「だれもが安心して暮らせる社会・地域」をめざして、行政や諸団体のみなさんといっしょに取り組みをすすめています。

高齢者見守り協定は31市町村と締結

いわて生協の共同購入・個人宅配や夕食宅配サービスでは、利用する高齢者を対象に、配達時気になることや異変があった場合、自治体が指定する窓口への連絡を行う活動を行っています。2016年度までに、県内33市町村中31市町村と「高齢者見守り協定」を締結しました。異変への対応事例はこの4年間で65件のほり、命を救う事例が増えています。



2017年度は6月に2町と協定を結び、全市町村との締結が完了します。夕食宅配サービスは基本手渡しでお弁当をお届け。

「生協さんを利用してよかった」

個人宅配をご利用の70代の方。配達に何うと、ろれつが回らず「頭痛がひどい」とのことから、共同購入センターから行政窓口と関東のご家族に連絡し、その日のうちに入院されました。幸い大事に至らず、「生協さんを利用してよかった」とご家族から感謝の言葉をいただきました。

高齢者見守り協定締結市町村(締結順)

- ・陸前高田市
- ・野田村
- ・田野畑村
- ・宮古市
- ・大船渡市
- ・滝沢市
- ・大槌町
- ・八幡平市
- ・住田町
- ・釜石市
- ・金ケ崎町
- ・一関市
- ・盛岡市
- ・紫波町
- ・葛巻町
- ・軽米町
- ・久慈市
- ・遠野市
- ・矢巾町
- ・北上市
- ・普代村
- ・奥州市
- ・二戸市
- ・雫石町
- ・洋野町
- ・岩手町
- ・一戸町
- ・山田町
- ・花巻市
- ・西和賀町
- ・九戸村

「コープフードバンク」8団体へ食品提供

「コープ東北」が運営する「コープフードバンク」では、お取引企業から余剰食品などの無償提供を受け、社会福祉に寄与する団体・組織などへ無償で提供する活動を行っています。こうした団体への支援を通して生活困窮者などへの支援のほか、食品の無駄をなくすことにもつながります。

岩手県内では2015年度から活動をスタートし、2016年度は新たに3団体と協定を締結し、提供先は8団体となりました。活動を支えるサポーターは個人会員110人、法人会員1社となっています(「コープ東北」全体では282団体に提供。サポーターは1,731人、114社)。



釜石市社会福祉協議会との協定締結式。

フードバンク協定締結団体(締結順)

- ・宮古市社会福祉協議会
- ・岩手保護院
- ・釜石市社会福祉協議会
- ・大船渡市社会福祉協議会
- ・花巻市社会福祉協議会
- ・一関市社会福祉協議会
- ・特定非営利活動法人くらしのサポーターズ
- ・北上市社会福祉協議会

首長懇談会15市町で開催

住みよい地域づくりをめざして、15市町で首長懇談会を開催しました。「地産地消、TPP問題」を主なテーマに懇談しました。

また、岩手県生協連主催の「県議会各会派との懇談会」（2会派）にも参加しました。

首長懇談会開催自治体(開催順)

- ・大槌町 ・一関市 ・北上市 ・八幡平市
- ・釜石市 ・陸前高田市 ・二戸市 ・奥州市
- ・宮古市 ・滝沢市 ・花巻市 ・紫波町
- ・大船渡市 ・久慈市 ・盛岡市

自治体などの委員会で提言

住みよい地域づくりをめざし、組合員理事を中心に自治体などの委員会に委員として参加し、生活者の視点で提言を行っています。

2016年度自治体・関係団体への主な委員出席

岩手県・ 関係団体	岩手県企業局経営評価委員会
	岩手県共同募金会分配委員会
	岩手県万引防止対策協議会
	岩手県食の安全安心委員会
	岩手県水産審議会
	岩手県中山間地域等直接支払制度推進委員会 岩手県食育推進ネットワーク会議
市町・ 関係団体	盛岡市上下水道事業経営審議会
	盛岡市ごみ減量資源再利用推進会議
	盛岡市玉山地域農業再生協議会
	滝沢市総合計画審議会
	滝沢市水道事業経営審議会
	岩手県共同募金会宮古市共同募金委員会
	宮古市地産地消推進計画策定委員会
	宮古市廃棄物減量等推進審議会
	北上市農業再生協議会
	雫石町地域農業再生協議会
	宮古市女性会議
	宮古市明るい選挙推進協議会幹事

岩手のスポーツ活動を応援

「希望郷いわて国体・いわて大会」の開催に、オフィシャルサポーターとして協力しました。また、「スペシャルオリンピックス日本・岩手」のオフィシャルサポーターとして、知的障がいをお持ちの方々のスポーツ活動を応援しました。

障がい者雇用の取り組みで 厚生労働省大臣表彰を受賞

「だれもが安心して暮らせる社会・地域づくり」として取り組んできた障がい者雇用の取り組みが評価され、「平成28年度障害者雇用優良事業所等表彰における厚生労働大臣表彰」を受賞しました。

共同購入事業では、視覚障がいのある組合員のために、宅配カタログを読み上げたCDを作成し届ける「リーディングサービス」を実施。現在46人が利用しています。組合員活動では、盛岡市と奥州市で34の福祉施設や団体といっしょに「福祉まつり」にも取り組みました。

被災地支援活動助成金をスタート 7団体に191万円

被災地で支援活動に取り組む団体・NPOの活動を応援しようと、全国の生協から寄せられた支援募金を活用し、助成金制度を新設しました。2016年度は審査の上、7団体に計191万円を助成しました。



被災地支援活動助成金贈呈団体

- ・宮古読み聞かせの会 おどっつあんS（宮古市）
- ・シンセサイザー演奏を聴く会（宮古市）
- ・CAPリアス（山田町）
- ・一般社団法人 Tsubomi（大槌町）
- ・NPO法人 おはなしころりん（大船渡市）
- ・NPO法人 再生の里ヤルキタウン（大船渡市）
- ・一般社団法人 陸前高田被災地語り部くぎこ屋（陸前高田市）

ユニセフ募金に協力

これまでの募金総額は1億2千万円

開発途上国の子どもの命と健康を守るユニセフ支援に取り組んでいます。2016年度は「東ティモール指定募金」を中心に、街頭募金活動「ハンド・イン・ハンド」や、書き損じハガキ募金などに取り組みました。また、店舗で回収するペットボトルキャップの益金を、毎年ユニセフ募金としています。

2016年度の募金は212万円、これまでの募金総額は1億1,807万円となりました。



「ピースアクション in ヒロシマ」参加者。



子育て世代の願いにそった活動「ハピママコープ」。

第4章

組合員活動

「助けあい、支えあい、ともにつくるくらしの安心」をめざして、組合員みんなで取り組みをすすめています。

食・くらし・平和を守る運動を推進

平和を守る運動

安全保障関連法のもと「戦争をする国づくり」への動きが急速に進められる中、諸団体といっしょに「安全保障関連法廃止を求める全国2,000万人署名」(5万2千筆、県内19万3千筆)「安保関連法の廃止等を求める署名」(1万6千筆、県内1万8千筆)に取り組みました。

平和の大切さを考える「夏休み親子ピースアクション」を各地で開催し、33企画に872人(うち子ども668人)が参加し、親子で平和の大切さを学習しました。

また、被爆の実相を学ぶ「ピースアクション in ヒロシマ」に組合員10人(うち子ども3人)、沖縄の歴史と現状を学ぶ「沖縄戦跡・基地めぐり」に理事2人を派遣しました。

子どもの医療費助成制度拡充を求める運動

県内の諸団体と一緒に、子どもの医療費助成制度の拡充を求めて取り組みを継続しました。この間の運動



が実り、2016年8月から就学前の医療費助成が現物給付となりました。小学生への助成拡充や市町村間の格差をなくすことを求めて、県や市町村への要請行動にも取り組みました。

灯油運動



灯油の適正価格と福祉灯油の拡充を求めて、岩手県と岩手県議会に要請・請願を行いました。こうした取り組みもあり、岩手県から沿岸12市町村への福祉灯油助成が6年連続で実施されました。

食の安全学習「食品添加物学習会」



組合員の要望にこたえ、食の安全学習会「食品添加物学習会」を2会場140人の参加で開催しました。「食品添加物の見方がわかった」「これからもなるべく添加物の入っていないコープ商品を選びたい」と好評でした。

2万2千人の組合員参加で運営

より多くの組合員の参加で生協を運営しようと取り組みました。おうちで自主的に開催する「初夏のコープのつどい」は、2,402ヶ所に8,986人が参加し、過去最高の参加となりました。会場で開催する「秋のコープのつどい」は5,683人、「お茶会」は1,136ヶ所で開催し4,229人が参加しました。また、計画づくりの場である「コープ懇談会」には2,289人、「コープ総代会」には1,454人が参加しました。

こうした話し合いの場への組合員の参加はのべ2万2千人と前年より1,500人増え、運営や計画づくりに組合員の意見・要望をいやすことができました。



子育て世代の願いにそった活動に3,800人参加

子育て世代（特に乳幼児を持つママ）の願いにそった活動に、2016年度はのべ3,800人が参加。子育て世代が生協を知る機会となっています。

ハピママコープ

子育てママ対象の企画で、2014年度にスタート。盛岡市、滝沢市、八幡平市、花巻市、奥州市、一関市の8店舗に加え、「私の地域でも開催してほしい」という要望にこたえて新たに北上市、宮古市での開催を始めました。10会場160企画に1,032組2,238人の親子が参加し、リフレッシュとママ同士の交流の場として大好評です。

また園児・小学生対象の長期休み企画として、「おしごとたいけん」「おかいものたいけん」も5回開催し、87人が参加しました。

子育てひろば

乳幼児親子対象の無料の遊び場として、盛岡市、滝沢市、奥州市、一関市の6店舗で131回開催。ミニイベントの開催などで前年より多い592組1,228人の親子が参加し、遊びやおしゃべりを楽しみました。



ポラン農業小学校

「農業体験を通じて、子どもたちに作物をつくる喜びと大変さ、自然のすばらしさを体験してほしい」と、JAいわて花巻と共同して1999年から開催。西和賀の自然の中でたくさん遊び、農作物を種から育て、収穫し、食べるまでを体験しています。2016年度は25人が参加し、一年を通して貴重な体験をしました。

安心して暮らせる地域づくりをめざして福祉活動に3,500人参加

コープくらしの助け合いの会

「困ったときはお互いさま」の気持ちから1992年発足した、組合員どうし助け合う有償ボランティア組織。高齢者や産前産後の方などを対象に、家事・生活援助を行っています。14市町10支部に会員1,200人、活動時間2万5,529時間と活動時間が増えており、活動会員を増やすことが課題です。

また「県北地域でも助け合いの活動を」という要望にこたえ、にのへ地域でのニーズを調査しました。



ふれあいサロン、ふれあいお茶っこ会

地域でつながり交流する場として「ふれあいサロン」「ふれあいお茶っこ会」を開催しています。

「ふれあいサロン」は、気軽に立ち寄り一息つける無料の場として、盛岡3会場で32回開催。309人が参加しました。

「ふれあいお茶っこ会」は、盛岡医療生協と共同で開催するミニデイサービス。盛岡地域16会場で157回開催し、2,020人が参加しました。1回300円の参加費で、血圧測定やレクリエーション、昼食など、楽しい時間を過ごしています。





親切な対応で評価される店づくりをめざしています。



共同購入・個人宅配は県内7万人が利用。

第5章

くらしを支える事業

店舗事業

くらしに役立つ「地域一番のお店」に

組合員のみなさんに喜んでご利用いただける商品の品揃えと展開に取り組みました。各部門で重点商品の利用引き上げや、簡単に調理できる商品、減塩などの健康に配慮した商品の利用が増えました。

高齢者へのお買い物支援を強化しました

無料お買い物バス

盛岡地域6店舗への無料バスを運行し、のべ2万7千人が利用しました。便数減少に伴い利用者は減りましたが、1便あたりの利用者は前年比113%と増加しました。

宮古市・山田町のお買い物バス、マリンコープドラと宮古駅間のシャトルバスを加えた利用者数は、のべ8万5千人となりました。



お買い物配達サービス

お店で購入した常温の商品をご自宅にお届けする「お買い物配達サービス」は、全店で年間4万人（前年比100%）が利用しました。

サービス介助士41人に

ハンディキャップを抱えた方に寄り添ったサービスや対応ができる資格「サービス介助士」の取得を、2013年度からサービス部門ですすめています。2016年度までに41人が資格を取得しました。

ふだんのくらしにいっそう役立つ事業・生涯をとおして組合員のくらしに役立つ事業をめざして、取り組みをすすめました。

「スピードレジ」を12店舗に拡大

レジの待ち時間を減らそうと、「スピードレジ」を12店舗に拡大しました（「スピードレジ」はレジ係が商品登録を行い、組合員自身が会計機で支払いを行うシステムです）。

「くらしと健康イキイキデー」開催

地域で安心して暮らせるためのいわて生協の事業・活動を知らせ、気軽に相談できる場をつくらうと、「くらしと健康イキイキデー」をベルフ青山（盛岡市）で月1回開催。健康チェックや介護、福祉相談、宅配弁当の紹介などを行っています。

組合員の声1万1,028件を仕事改善に

お店の売り場などで組合員から出された、商品や店舗運営に関する声を「声の記録」で集約し、日常の仕事改善にいかしています。2016年度は1万1,028件（2015年度1万1,344件）の声寄せられました。

区分	2016年度	2015年度	増減
意見・要望	4,716	4,592	+124
お問い合わせ	3,733	4,224	-491
おほめ・感謝の声	1,533	1,445	+88
商品・運営に関する苦情	982	1,025	-43
その他	64	58	+6
合計	1万1,028	1万1,344	-316

共同購入事業

毎週の利用者は7万人に増加

商品案内チラシを見て注文いただいた商品を翌週お届けする「共同購入・個人宅配」の利用者は、7万人を越え、県内世帯の13.8%の利用になりました。今後事業を広げる基盤整備として、けせんセンター（大船渡市）、県南センター（奥州市前沢区）を増床・改築しました。

また、インターネットサービスの名称を「^{あっと}@コープ」に改称、共同購入で配布しているすべてのチラシ・カタログをWebカタログで見られるようになりました。「注文書の控えがほしい」という要望にこたえ、「注文控えメール」を新たにスタート。「商品をダブって注文することがなくなって助かる」と喜ばれています。

夕食宅配サービスを全県で展開

週5回、カロリーや塩分に配慮したお弁当をお届けする「夕食宅配サービス」は、要望にこたえて配達エリアを拡大し、2016年度は沿岸・県北地域に展開。全県でのサービス展開となりました。

「人気メニューウィーク」や、組合員活動といっしょに試食会を開催するなどの取り組みで食数も増え、17市町で1日1,798食（前年より444食増）の利用に広がりました。

夕食宅配サービス提供地域（一部展開地域を含む）

- ・盛岡市
- ・花巻市
- ・宮古市
- ・一戸町
- ・滝沢市
- ・北上市
- ・大船渡市
- ・大槌町
- ・雫石町
- ・奥州市
- ・釜石市
- ・久慈市
- ・矢巾町
- ・平泉町
- ・二戸市
- ・紫波町
- ・一関市



夕食宅配弁当の試食会を通して、取り組みを広く知らせています。

個人宅配サポート制度で

子育て世代や高齢者のお買い物を応援

子育て中の方や高齢の方、障がいのある方などを対象に、個人宅配の配達手数料を優遇する「サポート値引き」制度は、2万7,793人が登録、個人宅配登録者の61.2%が制度を利用しています。

個人宅配サポート制度の登録人数

制度	登録人数	個配利用者に占める割合
高齢者サポート値引き 70歳以上の単身、または夫婦世帯	9,343人	20.6%
復興支援サービス&新・被災者サポート値引き	6,762人	14.8%
子育てサポート値引き 母子手帳発行から満6歳までのお子さんがいる方	5,185人	11.4%
障がい者サポート値引き 障がい者手帳をお持ちの方がいる世帯	4,155人	9.2%
介護者サポート値引き 介護認定を受けている方がいるご家族	2,348人	5.2%
合計	27,793人	61.2%

日々の困りごとへのお役立ち

日常の配達業務を通し、組合員のちょっとした困りごとを生協の事業・活動につなぐ取り組みを、盛岡北・盛岡南センターでスタートしました。掃除、草取り、雪かき、ごみ捨てなどの要望18件を事業・活動につなぎ、感謝される事例も増えてきています。

商品案内チラシを

トイレットロールにリサイクル

「毎週届くチラシがもったいない」という声を受けて、1997年に共同購入チラシの回収リサイクルを開始しました。回収したチラシは「アイコープわたしたちのリサイクルトイレットロール」（一関市・上山製紙製造）の原料の一部になっています。2016年度は2,996トン（前年比102%）を回収しました。





いわて生協9館目の葬祭会館「セリオホール岩泉」。



コープ共済イメージキャラクターコーすけと常勤者。

共済事業

9千件の加入で契約件数10万7千件に

コープ共済の2016年度の新規加入は9,317件となり、契約件数は10万7,691件と計画を達成しました。先進医療特約の新設やジュニアコースの延長など、さらに制度を充実することができました。店舗では「コープアテリイ」（奥州市）に、いわて生協2店目の独立型共済カウンターを設置し、気軽に相談しやすい環境を作りました。

また、希望のあった県内229の小学校7,447人の新入学児童へ「コーすけ入りランドセルカバー」を贈呈し、「交通安全に役立っている」と感謝されています。



顧客満足度4年連続1位に

全国での加入者は851万件に広がり、利用者からの評価であるJSCI日本版顧客満足度調査の生命保険部門で、「顧客満足度4年連続1位」を獲得しました。

台風10号を含め9億円を超える共済金をお支払い

台風10号被害を受けた岩泉町では、コープ共済加入者訪問を行いました。「住宅被害でお見舞金が出るなんて知らなかった」など感謝の声がたくさん寄せられました。2016年度は台風10号を含めた共済金のお支払いは1万2,977件、9億4,150万円(前年比107.5%)となり、「組合員の暮らしを支える共済」の役割を發揮することができました。



岩泉町でのコープ共済加入者訪問。

葬祭事業

セリオホール岩泉を開設、9ホールに

いわて生協の葬祭事業は「人生最後の儀式だからこそ、自分たちがつくる生協で」「納得できる適正価格で」という組合員の願いから生まれ、1993年度から事業を開始しました。組合員からの要望も高く、セリオホール（葬祭会館）の建設を積極的にすすめています。2016年度はセリオホール岩泉を開設し合計9ホールとなり、年間の施行件数は1,170件（前年比106.5%）と増えました。

「セリオ積立」も、10,752件（前年比105.7%）に増えました。盛岡4ホールでの「終活フェア」や、組合員の要望にそった学習会などを開催し、「また開催してほしい」と好評でした。



「終活フェア」は個別相談コーナーも設けています。

介護・福祉事業

サービス提供人数が6千人に

2016年度の総利用人数は6,115人（前年比110.4%）となり、居宅介護支援（ケアプラン作成）、訪問介護、福祉用具レンタルの3部門とも利用が増えました。福祉用具レンタルはサービス提供地域を矢巾町・紫波町にも拡大し、過去最高の利用人数となりました。

介護・福祉相談は年間128件となり、福祉用具の問い合わせ・購入が増えました。



機会あるごとに店舗などで福祉用具を展示、相談に応じています。

「暮らし支援」事業と活動を知らせようと地域福祉委員会をスタート

いわて生協の暮らし支援事業と活動をより広く知らせようと、福祉分野に関わる部署や組合員、関係団体で「地域福祉委員会」を新たにスタートしました。介護・福祉事業と共同購入センターの「困りごと解決」の取り組み（16ページ）、店舗での「暮らしと健康イキイキデー」開催（15ページ）、「困った時のお助けブック」（盛岡地域対象）の改訂などに取り組みました。



「暮らしと健康イキイキデー」は、毎月ベルフ青山（盛岡市）で開催。

住まいと暮らしのサービス事業

提携施設増で、4万8千人利用

住まいと暮らしのサービスセンターは、地元専門業者や施設と提携し、さまざまなサービスを組合員に提供しています。2016年度は、新たなサービスの開始や組合員カード提示で特典が受けられる施設に「家電量販店コジマ」や新たな温泉施設（3施設増え12施設に）が加わり、利用者がのべ48,550人（前年比109.7%）と増えました。



暮らしに役立つサービスを提供しています。

南昌荘が映画「3月のライオン」舞台に

1885年（明治18年）建造の南昌荘は、保存を望む多くの声にこたえ、いわて生協が保有し維持管理と公開を行っています。盛岡市の保護庭園、保護建造物であり、庭園は国の登録記念物にも認定されています。

2016年6月には、映画「3月のライオン」対局シーンの撮影が南昌荘で行われました。映画が公開された2017年3月以降、原作や映画ファンが多く足を運んでいます。

